

製品名: RhoA ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21618**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:21kD;Observed MW:21kD

抗原情報

遺伝子名	RHOA
別名	Transforming protein RhoA;Rho cDNA clone 12;h12;
遺伝子 ID	387.0
SwissProt ID	P61586
免疫原	ヒト RhoA の合成ペプチド

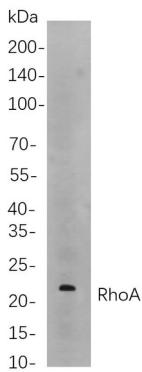
背景

細胞の局在:細胞膜; 脂質アンカー; 細胞質側。細胞質、細胞骨格。分裂溝。細胞質、細胞皮質。中間体。細胞突起、ラメリポディウム。細胞突起、樹状突起。核。カルシウム処理したケラチノサイトでは細胞間接触部に局在する (類似性による)。ECT2 依存的に溝形

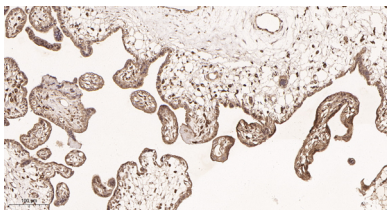
成前に赤道領域に移動する。活性化型で、ミオシンおよびアクチン非依存的に、前期後期に赤道細胞皮質（予定溝の位置）に局在する。...この遺伝子は、不活性な GDP 結合状態と活性な GTP 結合状態の間を循環し、シグナル伝達カスケードの分子スイッチとして機能する、低分子 GTPase の Rho ファミリーのメンバーをコードします。Rho タンパク質はアクチン細胞骨格の再編成を促進し、細胞の形状、接着、および運動性を制御する。この遺伝子の過剰発現は、腫瘍細胞の増殖および転移と関連している。複数の選択的スプライシングバリエントが同定されている。[RefSeq 提供、2015 年 9 月]

研究分野

画像データ



RhoA ウサギ mAb を用いた NIH3T3 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト胎盤組織の免疫組織化学分析。1、RhoA ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈（4℃、一晚）。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた（>98℃、20 分）。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。